

2016年(平成28年)12月28日 水曜日

民間事務所をCLTで建設

県内初で南九州産杉使用

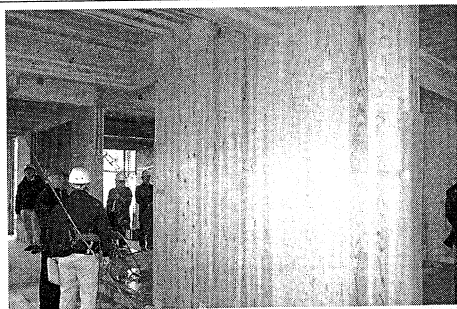
福岡・大匠建設

福岡県筑紫郡那珂川町に、同県初となるCLT建築物が建てられている。大匠建設(筑紫郡、井上真一社長)の2階建て事務所ビルで、鹿児島、宮崎両県を中心とした南九州産杉材を170立方メートル活用する。そのうちCLTの材積は160立方メートルだ。断熱材を使わず床や壁、天井に現地でCLTパネルを使用していることなどが特徴となる。また梁や柱など一部に集成材を使用し、2階の事務室には集成材梁の9・5メートルを飛ばしている。

CLT工法の同事務所ビルは、延べ床面積は374・20平方メートル。一番大きな壁が高さ4000×幅2000×厚み150ミリで、同床は高さ4000×幅2000×厚み210ミリとなる。燃えしる設計で、準耐火構造だ。工期は11月1日から来年2月未までの予定。大匠建設は環境意識

の高いビルダーで、昨年度のCLTを活用した建築物の実証事業の補助を受け、建築に取り組んだ。コストは補助金を除けばRC造とほぼ同等としている。1階は会議室やショールームなどの活用を想定し、2階は事務室として使う。施工は同社、設計はブルクが担当。木材の調達や

CLT部材の加工、供給は山佐木材(鹿児島県肝属郡)が担った。九州では今年7月に、熊本県西原村(阿蘇郡)でCLTパネル工法の、平屋建て簡易宿泊所が設置されるなど、各地でCLT建築物が建てられている。福岡県もCLTは新たな木材需要につながるとして、普及させてい



床や壁、天井にCLTを活用する

共施設へのCLT活用も意識する。技術面などを含めた情報収集や発信を行っている。20日は福岡県が主催し、大匠建設の事務所ビルを開放した。県担当者や施工、設計者が同材普及に向けた流れや補助金関連、施工上の注意点を説明。午前と午後に分けて行った見学会には、県内を中心に取得する集成材メーカーは少ないものの、将来の福岡県産材による公

共施設へのCLT活用も意識する。技術面などを含めた情報収集や発信を行っている。20日は福岡県が主催し、大匠建設の事務所ビルを開放した。県担当者や施工、設計者が同材普及に向けた流れや補助金関連、施工上の注意点を説明。午前と午後に分けて行った見学会には、県内を中心に取得する集成材メーカーは少ないものの、将来の福岡県産材による公